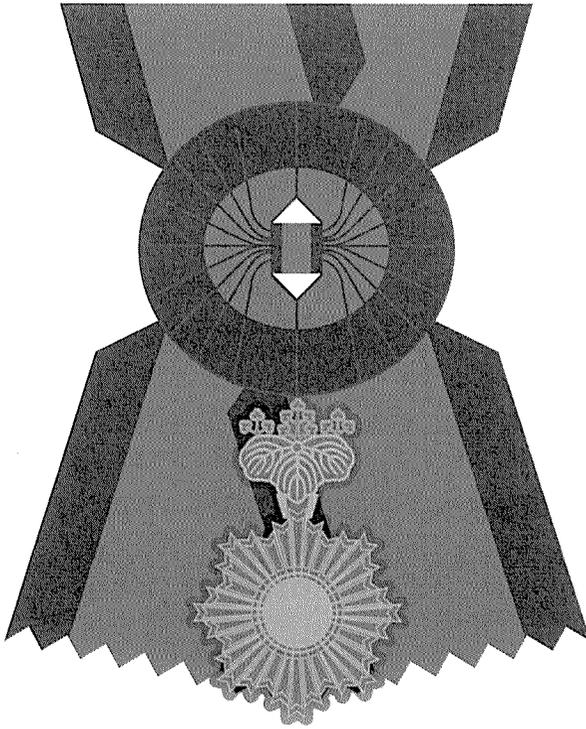


国・地域に貢献した人々

# 春秋叙勲受章者

1964  
2023



# 目 次

凡 例	(6)
日本の勲章制度について	(8)
勲章の種類・概要	(12)
春秋叙勲受章者 1964-2023—国・地域に貢献した人々	1

# 凡 例

## 1. 本書の内容

本書は、昭和39年（1964年）4月29日付で行われた戦後の第1回叙勲以降の春秋叙勲受章者のうち、勲三等以上の受章者47,153人を掲載した資料集である。対象となる受章者を年順に掲載した本文と、受章者氏名索引、肩書索引を掲載した索引で構成されている。

## 2. 収録対象

(1) 昭和39年（1964年）春から令和5年（2023年）春

(2) 勲三等以上の春秋叙勲受章者

※但し、外国人や辞退者、内定直後に死去した方は除いた

## 3. 見出し

(1) 受章年は元号の後ろに西暦を（ ）に入れて表示し、その後ろに「春」または「秋」を表示した。

(2) 章名は勲等別（大勲位菊花章・桐花大綬章・旭日章・宝冠章・瑞宝章の順）に、【 】に入れて表示した。但し、新しい叙勲基準によって皇女及び内親王が叙勲された昭和39年（1964年）の第1回に限り、勲一等宝冠章から掲載した。

(3) 沖縄及び在外関係者は《沖縄》または《在外》の見出しを付け、各回の最後にまとめて掲載した。

※沖縄関係者は沖縄が米軍統治下にあった昭和47年（1972年）まで、通常の受章者と分けて報道された

※在外関係者は在外邦人及び帰化邦人を指す

## 4. 受章者の記述

内閣総理府賞勲局（現・内閣府賞勲局）の発表資料や新聞報道に従った。各項目の詳細は下記の通り。

(1) 受章者氏名

表記は可能な限り一般に知られている名前を採用し、使用漢字は原則常用漢字、新字体に統一した。雅号や筆名等の別名がある場合や、本名の読みをもとに排列されている場合は（ ）に入れて補記した。

例) 堺屋 太一（池口小太郎）

排列は政府の発表資料や新聞報道に従った。

(2) 年齢

受章者の年齢は発表当時のもの。

(3) 主な経歴

発表当時の肩書や専門分野等を表示した。表記は可能な限り統一を図った。経歴の「元」には「前職」を含む。

## 5. 参考資料

掲載されたデータについては、主に下記の資料に拠った。

『日本叙勲者名鑑 昭和39年4月～昭和53年4月』（上・下）日本叙勲者協会 1978.11

朝日新聞社編『朝日新聞縮刷版』朝日新聞社 1964-2023

内閣府公式ウェブサイト

人物情報データベース「WhoPlus」日外アソシエーツ

## 日本の勲章制度について

### 勲章とは

勲章とは、国家や社会への永年の功労あるいは社会の各分野における優れた行いに対して国家が個人を顕彰することを指す。勲章の授与は、日本国憲法第1章第7条第7号「栄典を授与すること」で内閣の助言と承認により天皇が行う国事行為として定められ、勲章の他には位階、褒章の授与がある。位階は功績のあった者が死亡した際に授与され、褒章は社会の各分野で優れた行いや業績がある者、法人、団体に授与される。日本には勲章を制度として運用する法律は存在しない。

勲章を授与することを叙勲といい、授与の時期と対象者により春秋叙勲、危険業務従事者叙勲、高齢者叙勲、死亡叙勲、外国人叙勲、緊急叙勲に分類される。本書で対象とした春秋叙勲は、昭和39年（1964年）から春は4月29日付（昭和の日）、秋は11月3日付（文化の日）で授与される勲章である（※1）。現在の勲章の基準は、平成15年（2003年）に閣議決定された「勲章の授与基準」に基づき、対象者は国家または公共に対し功労のある70歳以上の者と、精神的、肉体的に労苦の多い業務や人目につきにくい分野の業務で功労のある55歳以上の者で、授与人数は春秋ともに概ね4000人である（※2）。

勲章の種類には、大勲位菊花章、桐花大綬章、旭日章、瑞宝章、宝冠章、文化勲章がある。旭日章と瑞宝章はそれぞれ、大綬章、重光章、中綬章、小綬章、双光章、単光章の6段階に区分される（詳細は「勲章の種類・概要」表を参照）。

（※1）令和元年（2019年）春は5月21日付で発令

（※2）平成15年より一般推薦制度も導入

### 勲章の歴史

日本における叙勲の起源は、大宝元年（701年）大宝律令の制定と考えられている。現在のように勲章を着用するような制度ではないものの、恩賞階級の荣誉称号として文位（位階の別名のようなもの）、勲位（勲功に応じて授与）の2種が与えられた。

日本人で初めて欧州の叙勲を受けたのは、天正10年（1582年）ローマ教皇のもとに九州のキリシタン大名が派遣した天正遣欧少年使節の4人と考えられており、13年教皇より金拍車騎士に叙された。

日本勲章史の嚆矢といわれる出来事に、慶応3年（1867年）フランス・パリで開催された第5回万国博覧会がある。幕府に対抗し薩摩太守政府として独自に参加していた薩摩藩は、万博開催の数年前からフランス人のモンブラン伯爵（日本名は白山伯）と協力関係を築き、フランスの勲章師にレジオン・ド・ヌール勲章をモデルにした「薩摩琉球国勲章（薩琉勲章）」の製作を依頼。独立国であることを国際社会に訴えるための手段として独自の勲章をフランス高官に贈呈し、薩摩藩の存在を即物的に示すことに成功した。

明治政府の成立後、近代国家建設へと邁進する中で、版籍奉還、廃藩置県と並んで政府が整備したものに勲章制度があった。勲章の交換や贈与は既に欧米諸国の国際的慣習となっていたため、日本での勲章制度整備も急務となり、明治4年（1871年）9月太政官の正院（政府）から左院（立法府、のちの元老院）に対し、賞牌・従軍牌などの制式に関する審議が指示された。6年1月左院が勲章の図と大まかな仕組みを示し、制度を運用する組織の必要性を建議。これに基づき同年3月、「メダイユ取調御用掛」（メダイユはフランス語でメダルの意）を設置。諸外国の勲章制度の調査や新制度の検討を経て、8年4月太政官布告第54号「勲章従軍記章制定ノ件」（現・勲章制定ノ件）が公布され、現在に続く日本の勲章制度が開始された。賞牌の対象者は国家に対する功労者と定められ、勲一等から勲八等までの旭日章を創設。同年12月勲一等旭日大綬章が初めて授与された。9年11月諸国の博覧会で優秀な物品に対して与えられる記念牌との混乱を防ぐため、賞牌から勲章へと改称。同年勲章関係業務を担う賞勲事務局が設置され、のち賞勲局に改称された。

明治16年から毎年春と秋の2回定期叙勲が行われ、21年皇族の受章者が大半を占めた旭日章や大勲位菊花大綬章（9年から授与開始）以外にも叙勲対象者を増やす事を目的に、瑞宝章と女性向けの宝冠章を増設。他にも、勲一等旭日大綬章の上位

## 勲章の種類・概要

種 類	概 要
現制度名(旧制度名)	
○大勲位菊花章	
大勲位菊花章頸飾	【制定年】 明治21年 【授与対象】 大勲位菊花大綬章の受章者
大勲位菊花大綬章	【制定年】 明治9年 【授与対象】 旭日大綬章または瑞宝大綬章を授与されるべき功勞より優れた功勞のある者
○桐花大綬章 (勲一等旭日桐花大綬章)	【制定年】 明治21年(平成15年以降は女性も対象) 【授与対象】 旭日大綬章及び瑞宝大綬章を授与されるべき者のうち、功績又は長年にわたる功勞が特に優れている者
○旭日章	【制定年】 明治8年(平成15年以降は女性も対象) 【授与対象】 社会の様々な分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者を表彰する場合に授与
旭日大綬章 (勲一等旭日大綬章)	【授与対象(目安)】 内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官
旭日重光章 (勲二等旭日重光章)	【授与対象(目安)】 ◇国務大臣、内閣官房副長官、副大臣、衆議院副議長、参議院副議長、最高裁判所判事(これらに準ずる職を含む)は旭日重光章以上 ◇経済社会の発展に対する寄与が極めて大きい企業の経営の最高責任者
旭日中綬章 (勲三等旭日中綬章)	【授与対象(目安)】 以下の◇に当てはまる者は旭日中綬章以上 ◇大臣政務官、衆議院常任委員長、参議院常任委員長、衆議院特別委員長、参議院特別委員長、国会議員(これらに準ずる職を含む) ◇都道府県知事 ◇全国の区域を活動範囲とする団体(職種別、業種別の団体、その他の公益性を有する各種団体)のうち、その活動が重要で、かつ影響が大きいものの長 ◇経済社会の発展に対する寄与が特に大きい企業の経営の最高責任者
旭日小綬章 (勲四等旭日小綬章)	【授与対象(目安)】 ◇地方自治法で定められた指定都市の市長は旭日小綬章以上 ◇全国の区域を活動範囲とする団体の長は旭日小綬章以上 ◇都道府県の区域を活動範囲とする団体のうち、その活動が重要で、かつ影響が大きいものの長 ◇経済社会の発展に対する寄与が大きい企業の経営の最高責任者は旭日小綬章以上
旭日双光章 (勲五等双光旭日章)	【授与対象(目安)】 ◇指定都市以外の市の市長、特別区の区長は旭日双光章以上 ◇都道府県の区域を活動範囲とする団体の長 ◇全国又は都道府県の区域を活動範囲とする団体役員 ◇市町村の区域を活動範囲とする団体のうち、その活動が重要で、かつ影響が大きいものの長 ◇国際的に高い評価を得た企業、技術が特に優秀な企業等の経営の最高責任者は旭日双光章以上

種 類	概 要
現制度名(旧制度名)	
旭日単光章 (勲六等単光旭日章)	【授与対象(目安)】 ◇町村長は旭日単光章以上 ◇都道府県議会議員、市議会議員、特別区の議会議員は旭日単光章以上 ◇町村議会議員は旭日単光章以上 ◇市町村の区域を活動範囲とする団体の長
(勲七等青色桐葉章)	
(勲八等白色桐葉章)	平成14年廃止が閣議決定
○瑞宝章	【制定年】 明治21年(大正8年以降は女性も対象) 【制定経緯】 旭日章を補完する目的で制定。当時は八等級。平成15年以降、旭日章とは功勞の質の違い(旭日=民間の分野・公選職、瑞宝=公務の分野)により区分され、内容を異にする 【授与対象】 国及び地方公共団体の公務又は公共的な業務に長年にわたり従事して功勞を積み重ね、成績を挙げた者を表彰する場合に授与
瑞宝大綬章 (勲一等瑞宝章)	
瑞宝重光章 (勲二等瑞宝章)	【授与対象(目安)】 事務次官の職を務めた者
瑞宝中綬章 (勲三等瑞宝章)	【授与対象(目安)】 内部部局の長の職を務めた者
瑞宝小綬章 (勲四等瑞宝章)	【授与対象(目安)】 本府省の課長の職を務めた者
瑞宝双光章 (勲五等瑞宝章)	
瑞宝単光章 (勲六等瑞宝章)	
(勲七等、勲八等瑞宝章)	平成14年廃止が閣議決定
○宝冠章	【制定年】 明治21年 【制定経緯】 女性を対象とする勲章として創設(制定当初は五等級、明治29年八等級に改定) ◇平成15年以降は、外国人(王族)や女性の皇族などに儀礼的に授与。現在は6段階(宝冠大綬章、宝冠牡丹章、宝冠白蝶章、宝冠藤花章、宝冠杏葉章、宝冠波光章)
○文化勲章	【制定年】 昭和12年 【授与対象】 文化の発達に関し、特に顕著な功績のある者。文化功勞者 ◇単一級の特等勲章として制定。発令日は11月3日(文化の日)。文部科学大臣の諮問機関・文化審議会にある文化功勞者選考分科会が選出
○(金鷄勲章)	【制定年】 明治23年 【授与対象】 軍人のみ ◇等級は功一級から功七級。昭和22年日本国憲法施行と同時に廃止

≪引用参考文献≫

『栄典制度の改革について』(平成14年8月7日閣議決定)を一部改変して引用

『勲章の授与基準』(平成15年5月20日閣議決定)を一部改変して引用

『勲章と褒章 新版』佐藤正紀著 全国官報販売協同組合 2014.4

## 昭和39年(1964年)春

## 【勲一等宝冠章】

鷹司 和子	34	第三皇女
池田 厚子	33	第四皇女
島津 貴子	25	第五皇女
甯子内親王	20	三笠宮崇仁親王の第一女子

## 【大勲位菊花大綬章】

吉田 茂	85	元内閣総理大臣
------	----	---------

## 【勲一等旭日大綬章】

小原 直	87	元司法大臣
霜山 精一	79	元最高裁判事
山田 三良	94	元日本学士院長
石橋 湛山	79	元内閣総理大臣
加藤鯨五郎	81	元衆院議長
片山 哲	76	元内閣総理大臣
田中耕太郎	73	元最高裁長官

## 【勲一等瑞宝章】

井上 登	79	元最高裁判事
石坂 豊一	89	元衆院議員
岩田 宙造	89	元法務大臣
小笠原三九郎	79	元大蔵大臣
栗山 茂	77	元最高裁判事
沢田 廉三	75	元国連大使
塩田 広重	90	東京大名誉教授
田島 道治	78	元宮内府長官
高石真五郎	85	元毎日新聞社長
野村 秀雄	77	元朝日新聞社代表取締役
一松 定吉	89	元建設大臣
平塚常次郎	82	元日魯漁業社長
前田房之助	79	元衆院議員
松永安左工門	88	元東邦電力社長

## 【勲二等旭日重光章】

有馬 英二	80	政治家
草間 偉	82	衛生工学
島村 虎猪	81	獣医教育
藤本幸太郎	83	統計学
上野 直昭	81	美術史
大久保留次郎	76	国務大臣
高橋龍太郎	88	通商産業大臣
鶴見 祐輔	79	厚生大臣
長谷川太一郎	82	最高裁判事
林 平馬	80	国務大臣

坂東幸太郎	82	政治家
向井 忠晴	79	大蔵大臣
本村善太郎	77	最高裁判事

## 【勲二等瑞宝章】

赤木 正雄	77	砂防事業
秋山孝之輔	79	公社総裁
阿部美樹志	80	調達庁長官
伊藤 保平	81	酒造業
蒲生 俊文	81	安全運動
小林 六造	77	伝染病予防
斯波孝四郎	89	造船事業
高島菊次郎	88	製紙業
田中鉄三郎	81	海外移住
富安 謙次(富安風生)	79	放送事業
中村 嘉寿	83	政治家
永井 亨	85	人口問題
長野 国助	76	弁護士
南郷 三郎	85	貿易
畠山 一清	82	科学技術振興
堀 新	80	電気事業
松木 弘	85	政治家
山崎 佐	75	弁護士

## 【勲三等旭日中綬章】

折下 吉延	82	都市計画
平野 亮平	84	塩業復興
牧野雅楽之丞	81	道路改良
吉田勝太郎	81	岐阜県知事
伊藤忠兵衛	77	貿易振興
石井 太吉	84	発明家
石原 円吉	86	水産振興
豊竹山城少掾(金杉弥太郎)	85	義太夫
椎尾 弁匡	87	仏教哲学
竹中藤右衛門	85	建設業
中沢 弘光	89	洋画
町村 敬貴	81	酪農振興
三船 久蔵	81	柔道家
三輪田元道	94	私学振興
村山喜一郎	91	造林事業

## 【勲三等宝冠章】

大妻コタカ	79	私学振興
星野 あい	79	私学振興

## 【勲三等瑞宝章】

藍沢 弥八	84	証券業
-------	----	-----

磯野 長蔵	90	ビール醸造
内田秀五郎	87	農業改良
浦山助太郎	98	電力事業
大橋 広	82	私学振興
大宮 庫吉	78	酒造業
岡野喜太郎	100	銀行家
金沢庄三郎	91	言語学
久布白落実	81	婦人運動
小松 隆	78	日米協会
斎藤 浄元	79	海難審判
白杉嘉明三	79	建設業
真藤慎太郎	80	水産業
杉山金太郎	88	製油業
高木 武	80	相互銀行
土橋八千太	97	私学振興
中平常太郎	85	社会福祉
野村治一良	88	海運・造船
野村 洋三	94	ホテル業
蓮沼 門三	82	社会教育
守屋 東	79	婦人福祉

昭和39年(1964年)秋

【勲一等旭日大綬章】

清瀬 一郎	80	元衆院副議長
正力松太郎	79	元国務大臣
星島 二郎	76	元衆院議長
益谷 秀次	76	元衆院議長
松村 謙三	81	元厚生大臣

【勲一等瑞宝章】

足立 正	81	元日本商工会議所会頭
安倍 能成	80	元学習院長
天野 貞祐	80	元文部大臣
石川 一郎	78	元経団連会長
石坂 泰三	78	元経団連会長
今村 荒男	77	元大阪大学長
太田 正孝	77	元国務大臣
大橋 八郎	78	元日本電信電話公社総裁
木村篤太郎	78	元法務大臣
小林 俊三	76	元最高裁判事
笹森 順造	78	元国務大臣
杉 道助	80	元日本商工会議所副会頭
十河 信二	80	元国鉄総裁
高橋誠一郎	80	元日本芸術院長
高柳 賢三	77	比較公法学
谷村唯一郎	77	元最高裁判事
津島 寿一	76	元大蔵大臣
鳥養利三郎	77	元京都大学長
南原 繁	75	元東京大学長
広瀬 久忠	75	元厚生大臣
真野 毅	76	元最高裁判事
松田竹千代	76	元郵政大臣
松永 東	77	元衆院議長
村上 義一	78	元運輸大臣
森戸 辰男	75	元広島大学長
吉野 信次	76	元運輸大臣

【勲二等旭日重光章】

荒井誠一郎	75	会計検査
市河 三喜	78	英語学
小野寺直助	81	医学研究
加藤与五郎	92	電子技術
笠原 敏郎	82	都市計画
栗山 重信	78	小児科医学
古武弥四郎	85	生化学
古屋野宏平	78	医学教育
柴田 雄次	82	分光化学
鈴木 敬一	75	元京都府知事

田中 芳雄	83	有機化学
武内 義雄	78	中国哲学
苜米地英俊	79	元衆院議員
原 龍三郎	76	化学研究
平塚 英吉	76	蚕糸研究
逢沢 寛	76	衆院議員
石原 謙	82	宗教思想史
稲垣平太郎	76	元通商産業大臣
梶井 剛	77	通信行政
河合 良成	78	元厚生大臣
北村徳太郎	78	元大蔵大臣
倉田 主税	75	電機工業
小林 絹治	76	元衆院議員
小柳 牧衛	80	参院議員
竹下 豊次	77	元参院議員
土倉 宗明	75	元衆院議員
内藤 多仲	78	建築学
中山 福蔵	77	参院議員
長尾 優	75	歯科医学
永田 良吉	78	元衆院議員
西村 茂生	79	元衆院議員
林屋亀次郎	78	参院議員
福井 盛太	79	弁護士
松田 正一	79	元衆院議員
宮沢 胤勇	76	元運輸大臣
安川第五郎	78	電機工業

【勲二等瑞宝章】

阿保浅次郎	83	私学振興
朝倉 希一	81	鉄道技術
浅田 長平	77	鉄鋼業
新井 堯爾	78	運輸行政
池田亀三郎	80	石油化学
石田 退三	75	自動車工業
石橋正二郎	75	ゴム工業
磯野 庸幸	86	元衆院議員
絲原武太郎	84	銀行業
稲田 直道	75	元衆院議員
海野 善吉	79	弁護士
大蔵 公望	82	交通事業
大塚 節治	77	私学振興
大槻 菊男	77	外科医学
大屋 敦	78	化学工業
河田 重	77	鉄鋼業
柏木 庫治	76	元参院議員
北沢新次郎	77	私学振興
久慈直太郎	82	産科学
久留島秀三郎	76	青少年指導
熊谷謙三郎	76	伝染病予防
重光 蔭	80	造船技術

柴田勝太郎	75	肥料工業
島田 武夫	75	弁護士
菅 礼之助	80	電気事業
杉生 紘	77	弁護士
田沢 録二	82	結核予防
高安 慎一	80	公衆衛生
辻 永	80	洋画
服部 岩吉	78	地方自治
原 安三郎	80	化学工業
三村 起一	77	産業安全
山上 岩二	79	米穀需給
結城 安次	80	元参院議員
米原 章三	80	自動車運送

【勲三等旭日中綬章】

安孫子孝次	81	農業技術
斎藤 静脩	80	北海道開発
羽溪 了諦	81	大学教育
原田 淑人	79	文化財保護
井本 常作	84	弁護士
石川 栄一	75	治山治水
犬丸 徹三	77	ホテル経営
岩男 仁蔵	76	農業振興
岩川 与助	78	石炭鉱業
岡田永太郎	81	海運航空業
春日 弘	79	日本陸連会長
堅山 南風(堅山熊次)	77	日本画
北沢敬二郎	75	百貨店経営
黒沢 酉蔵	79	酪農振興
児玉 九十	75	私学振興
佐藤 博夫	78	私鉄経営
白井 市郎	77	酒類醸造
高野 弦雄	76	公安委員
高橋 義次	82	弁護士
塚田 公太	79	貿易振興
中野種一郎	88	地方自治
永井幸太郎	77	貿易振興
西山 亀七	82	元参院議員
信時 潔	76	音楽
藤波 収	76	電源開発
堀江 勝己	79	水道事業
宮崎彦一郎	76	貿易振興
森本 貫一	76	ガラス工業
山下新太郎	83	洋画
米倉 龍也	79	農業振興

【勲三等宝冠章】

上代 タノ(上代たの)	78	女子教育
-------------	----	------

Table listing names and titles of individuals in the 2022 Autumn section, including names like 高橋 洸治, 中村 文生, etc.

令和5年(2023年)春

Table listing names and titles of individuals in the 2023 Spring section, including names like 三浦 淳, 山口 重之, etc.

<< 在外 >>

【瑞宝中綬章】

Small table listing individuals under the 瑞宝中綬章 category, including 池内 克史.

【旭日大綬章】

Table listing individuals under the 旭日大綬章 category, including 池上 政幸, 岡田 卓也, etc.

【瑞宝大綬章】

Table listing individuals under the 瑞宝大綬章 category, including 岩崎 茂, 奥島 孝康.

【旭日重光章】

Table listing individuals under the 旭日重光章 category, including 泉 雅文, 田中 稔一, etc.

Table listing individuals under the 旭日重光章 category, including 築瀬 進, 亘 信二.

【瑞宝重光章】

Table listing individuals under the 瑞宝重光章 category, including 有川 節夫, 安藤 恒也, etc.

---

# 春秋叙勲受章者 1964 - 2023

## — 国・地域に貢献した人々

---

2023年7月25日 第1刷発行

---

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

---

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

---

不許複製・禁無断転載  
<落丁・乱丁本はお取り替えます>

《中性紙・越流クリームキンマリ使用》

ISBN978-4-8169-2974-8

Printed in Japan, 2023

本書はデジタルデータでご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。